

平成18年6月（第3回）議会一般質問事項

1 総合計画の策定について

- (1) 現在の状況
- (2) 今後のスケジュール
- (3) 策定に向けた考え方

2 住民サービスについて

- (1) 巡回バスの現状と課題
- (2) 庁用バスの現状と課題
- (3) 高齢者福祉施設の現状と課題

3 中高一貫教育について

伊勢崎クラブを代表し、通告に従い、順次一般質問を行います。

第1点目、総合計画の策定についてお伺いいたします。

地方自治法第2条4項に、市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない、こんなようにうたっております。

それに基づき伊勢崎市の総合計画を策定し、市の将来像、長期目標を定め、その実現に向けて取り組んでいることと思われまます。

本市においても、去る5月31日に第1回伊勢崎市総合計画審議会を立ち上げ、平成19年度からのスタートに向け動き出したと聞いております。

昨年1月に合併し、そして今年4月激戦を勝ち抜いた新市議34人全員が一丸となってこの大事な総合計画に取り組み、新伊勢崎市の未来のために進めなくてはならないと思いますが、いかがでしょうか。

総合計画は地方自治体の憲法と言うべきものであり、とても重要なことであり

ます。

自己決定、自己責任による自治体運営が当たり前の今日であり、20万特例市になると今まで以上に環境に配慮し、たまちづくりや都市計画に沿った住みやすいまちづくりを進めることができます。

合併前においては、新市建設計画を策定しておりますが、その時、その時代に合った計画でなくてはならないし、また初代市長矢内一雄カラーの見えるものなのか、お聞きしたいところであります。

そこで、現在の状況、今後のスケジュール、策定に向けた考え方等をお伺いしたいと思います。

第2点目、住民サービスについてお伺いいたします。

本格的に新20万県央都市が誕生し、動き出しました。

今までは、私の村ではこうだった、私の町ではこうだったと、新市の一体となった政策により戸惑うことが今までは多々あったと思われま

す。特に東地区においては、東西3キロメートル、南北6キロメートルと小さい面積の中に2万3,000人もの人たちが暮らし、巡回バスを初め庁用バスと教育関係にバスがあり、至れり尽くせりでありました。

また、みやまセンターの施設、催し物にも定評があり、連日にぎわいを呈しているところであります。

しかし、合併になり、一元化のもと、住民にとってサービスが低下したという声を多く耳にいたします。

しかしながら、新伊勢崎市の構築のためにはいたし方ないのかと疑問が残るところであります。

便利で効率的なバス路線網の実現に向けて努力していると思いますが、住民にとって何が望むサービスなのか、また費用対効果を考え、真の住民サービスとは何か等について改めて考えるときだと思われま

す。そこで、今現在行われております巡回バスの現状と課題、二つ目に、庁用バスの現状と課題、そして三つ目、みやまセンター等を含めました高齢者福祉施設の現状と課題等についてお伺いいたします。

3点目、市立伊勢崎高校における中高一貫教育の導入についてお伺いいたします。

このことについては、昨年3月議会で本員から伊勢崎市において中高一貫教育の導入の考えがあるかどうかお伺いしたところでありますが、その際の教育長の答弁では、中高一貫教育の意義は認識するものの、平成17年度より、現行の普通科高校の教育課程を基本に6コース制を取り入れ、生徒の多様な興味、

関心、多岐にわたる進路に対応した指導の充実を図っていくとの答弁でありました。

先日の上毛新聞にも、補習授業の実施が掲載されており、伊勢崎市の教育に対する熱意が感じられます。

本員を初めとし、子供を持つ親のみならず、教育は本当に関心のある事柄であります。

近年、全国的に高等学校への進学率がほぼ100%となり、生徒の能力、適性、興味、関心、進路などが多様化する中で、多様な特色ある学校づくりを進めていくことが急務であると考えます。

県においても高校改編を進めており、特に伊勢崎地区では平成17年度より伊勢崎清明高校、もとの県立伊勢崎女子高校であります。そこでは単位制学校となったり、今後の生徒数の減少から境高校と伊勢崎東高校を統合し、新たに県立伊勢崎高校にするなど、統廃合を含む高校改革が市民の目に見える形で進んでいるのが現状であります。

また、全国的にも中高一貫校の効果や実績が上がってきており、中高一貫教育に対する期待が高まっております。

このような状況下において、市立伊勢崎高校においても新たな方向性、つまり中高一貫教育を、たとえ負担増になっても早期に導入していくことが教育の振興に重要であり、伊勢崎市民に愛される学校づくりになると考えますが、いかがでしょうか。

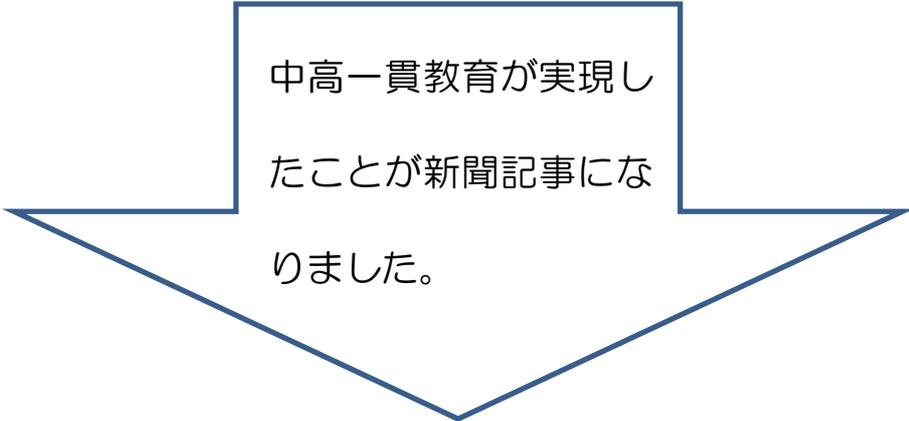
そこで、改めて中高一貫教育の導入についての考え方を伺いいたします。

以上のことを議会で質問してきました。

当日は後援会の人達50人近くが傍聴にきて、激励していただきました。

私の公約でもあった「**中高一貫教育**」が実現の運びとなりました。

今後もますます皆様の為に一生懸命頑張りますので宜しくお願いします。



中高一貫教育が実現したことが新聞記事になりました。

立高 市伊勢崎

中高一貫校に

市教委

国際教育に重点

寮生活 経験も 1学級30人の少人数制



08年度から中高一貫校になる伊勢崎市立伊勢崎高校

伊勢崎市教委は12日、08年度から市立伊勢崎高校(伊勢崎市上種木本町、堀沢勝校長)を中高一貫の「伊勢崎中等教育学校」に改編することを明らかにした。県内の公立校では県立中央中等教育学校(高崎市新保田中町)に続いて2校目で、市立校では初の試み。新しい学校では6年間という長期の教育期間を活用して、

英語や中国語での授業を導入するなど国際化に重点を置く考えだ。市教委は「国際人を育成したい」としている。
市立伊勢崎高校は1954年に市立女子高として創立。93年に男女共学となり、現在約600人が在籍する。一貫校の中等教育学校では生徒数を約1200人増やすと同時に、1クラス30人の少人数制にする。市立伊勢崎高校としての募集は10年度新入生までとしている。通常の中学校段階を「前期課程」、高校段階を「後期課程」とし、前期生徒を受け入れるために、現在の敷地内に順次、校舎を整備するという。
現在、同市には県内最多の約1万2000人の外国人が居住しており、ブラジルなどの南米系に次いで中国や台湾の出身者も多い。また、同市は

同市の「国際化」が注目。これから係も一層

米国のミズーリ州スプリングフィールド市、中国安徽省馬鞍山市と姉妹都市提携を結んでおり、今後さらに交流を深める考えだ。このため、新学校では語学や文化を中心に学習するとしているが、具体的内容については今後、詳細に詰めていくという。また、生徒たちに寮生活を経験させるほか、市内の企業との連携など独自のカリキュラム案も検討している。